

質問

乳がんが診断され、乳房を残す手術を受ける予定です。医師から手術後に放射線治療を受けるように言われています。なぜ手術後に放射線治療が必要なのでしょう。また仕事との両立はできますか。

乳がんの乳房温存手術



川中 崇  
徳島大学病院  
放射線治療科副科長

回答

早期の乳がんがんと診断されて乳房を残す手術である乳房温存手術(乳房部分切除手術)を選択したのだと思います。乳房温存手術は、がんを周囲の正常乳腺を含め部分的に切除し、乳房が残るよう手術する方法です。

以前は乳がんの再発を予防するために早期でも乳房を全て切除する乳房全切除術を行っていました。しかし、乳房全切除術では乳房温存手術に比べて再発は抑えられませんが、女性にとって乳房が失われることが大きな苦痛になることがあります。その後、乳房温存手術後の乳房全体に5、6週間程度の放射線治療(全乳房照射)を追加する乳房温存療法による治療の有効性が確認され、現在では早期の乳がんに対する標準治療として確立しています。

再発予防へ放射線治療追加



乳房温存手術後の放射線治療は通常、手術による傷が落ち着いてから開始します。また化学療法が必要な患者は化学療法の後で始めることがあります。放射線を照射しても痛みなどを感じることはありません。それでも治療期間中に皮膚炎が出たり、治療後1年くらいは放射線による肺炎を起

こしたりする場合があります。

放射線治療による体力低下を心配する人が多いものの、乳房への放射線照射で体力低下はありません。通院時間を確保できれば仕事との両立も可能です。実際多くの患者

がん何でもクイズ

大腸がん検診はどのような検査でしょう。

- ①血液検査 ②尿検査 ③便潜血検査

行こうよ!がん検診



イラスト・伊藤 司郎

仕事との両立も可能

早期の乳がん治療は乳房を残してしっかりと治療するだけでなく、治療後の乳房をきれいに保つよう努力しています。症状によっては適用できない場合があるものの、新しい治療法もあります。担当医師と相談の上、納得できる治療法を選択してください。

(第4土曜掲載)

がんに関する質問は  
徳島がん対策センター  
(電088(634)6442)  
(平日午前8時半から午後5時までは)

